

## 吃音の理解と支援②



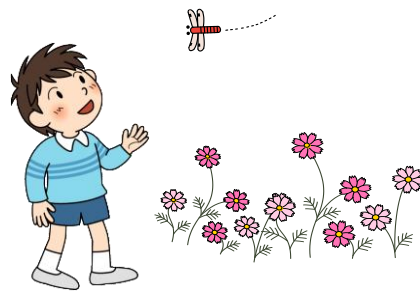
「吃音の理解と支援」として「①」に引き続き、話し方（吃音）で困っている子どもたちにどのような支援・配慮をしていったらいいのか、実践例やヒントを一部ご紹介していきます。

### 「吃音」があると、次のようなことが心配されます。

思うようにことばが表せず、イライラすることが多くなり、コミュニケーションがうまくいかなることがあります。

→（その結果）

- ・人とのつきあいが消極的になる子どももいます。
- ・うまく言えず、物に当たるようになる子どももいます。
- ・特定のことばや人に対して話すことを恐れ、避けるようになる子どももいます。
- ・物事を消極的に捉えたり、自信がもてなくなったりする子どももいます。
- ・うまくいかないことを吃音のせいだと思うようになることもあります。



※このようなことを事前に防ぐために支援していくことが、在籍学級やご家庭でも必要になります。

### ○在籍学級やご家庭では、次のような支援(対応や配慮)をお願いします。

#### 1. よくある誤解

- ・愛情不足やストレス、幼児期のトラウマ、保護者の接し方ではないかと誤解されることがありますが、そうではありません。

#### 2. よくない対応

- ・話し方のアドバイスをする。（例）「もっとゆっくり」「落ち着いて」「もう一度」話し方に注目するのではなく、話す内容に注目して受け答えをしてください。

#### 3. 吃音のある子への接し方とお願い

《授業・音読の宿題》

- ・授業での音読や発表場面では、机の並び順に順番に当てられる方がいい子どもと、急に当てられる方がいい子どもがいます。これは、一人ひとりによって異なります。どういう当て方がいいのか事前に話し合っておくことも有効な支援策です。
- ・音読で、最初のことばがなかなか出ない時は、先生や保護者の方が出だしのところを小さな声で読んでリードしていくと、それに合わせて読むことができます。
- ・話し始めるのに、また、話し終わるまでに時間がかかることがあります。あせらずにゆっくり接してください。

《学校生活場面》

- ・学校生活の中で、まねやからかいを見つけたら、注意をお願いします。
- ・「どうしてそんな話し方なの？」と友達に聞かれた時にどう答えるのかについては、きこえとことばの教室で話し合っている場合があります。連携を取っていききたいと考えています。
- ・吃音の症状と吃音児本人の不安や心配とは必ずしも比例しません。「吃音なんて気にするな」といった励ましは、かえって理解してもらえない不信感につながる場合があります。子ども自身の気持ちを大切にしたいかわりをお願いします。

※子どもによって支援の方法が異なることも多いので、個別に相談していけたらと考えます。